

大学の世界展開力強化事業（平成23年度採択）事後評価結果表

大 学 名	名古屋大学
整理番号	B - I - 3
事 業 名	修士課程国際共同大学院の創成を目指す先駆的日米協働教育プログラム

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価) <b style="font-size: 2em;">B	取組状況、目標の達成状況が事業計画をやや下回っているが、事業目的はある程度実現された。
(コメント)	<p>交流プログラムの枠組みについては、日本の「ものづくり」の拠点に立地する名古屋大学の特徴を活かした工学系修士課程に焦点を当てた日米協働教育プログラムとなっており、研究インターンシップを中心に、ミシガン大学との単位互換を含めた協働教育、アカデミックカレンダーに配慮した学生の派遣と受入を実施した。</p> <p>一方で、当初予定していたカリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）との単位互換は実現できなかったため、名古屋大学、ミシガン大学、UCLAの3大学の協働教育プログラムによる「国際共同大学院の創成」という段階には至っておらず、質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成という点については課題が残った。</p> <p>事業の実施に伴う環境整備については、教育交流や留学生受入部門と連動する国際機構体制の整備などの努力により、国際化が着実に進展している。</p> <p>目標の達成状況については、派遣学生については定期ワークショップを中心に目標値を上回り、その数は年を追うごとに増加が認められたが、長期の派遣学生数、受入学生数は目標をやや下回っているため、今後の改善が望まれる。</p> <p>今後の展開については、修士学生の研究交流には普遍性があるので、大学教育のグローバル展開力の強化のための事業展開が期待される。3大学の実質的な協働教育プログラムとなるよう、資金計画も含めたプログラムの継続的实施が望まれる。</p>